安全広報誌

安衛委 No ７５
平成２０年３月７日
安全衛生推進委員会

【年度末労働災害防止】

建設業年度末労働災害防止強調月間が３月１日～３１日実施されています。年度末に発生する労働災害の要因として、公共工事の完成時期を迎えるため、工事の輻輳化、変更による突貫的な施工、作業間の連絡調整不足、作業指示の不徹底、体調管理不足などが考えられています。年度末における労働災害が多い、次の項目に関し事故防止を図ってください。

◆三大災害（墜落・転落災害、建設機械、クレーン等災害、倒壊・崩壊災害）
◆交通労働災害
◆不安全行動による災害
◆健康管理による災害

昨年１年間の福島県内での建設業労働災害状況は、休業４日以上の死傷病災害が３２７人と前年に比べて３２人の減少となりましたが、死亡災害については、８人で前年に比べて１人の増加となってしまいました。８人の内訳を見てみますと「墜落・転落」が５人と圧倒的の多く、挟まれ巻き込まれ、踏み抜き、おぼれがそれぞれ１人となっております。規模別でも１０人未満の小規模企業での災害が６人となっており、年代別でも５０代６人、６０代２人と高齢者の方に集中しておりますので、高所作業の際は必ず安全装備を忘れずに行い、事故防止を図ってください。

【一病息災】

一つぐらい病気を持っている方が、かえって健康管理に気を付けて養生するから長生きをする、という意味です。
歳を重ねると誰しもが体に不具合が生じます。これは誰しも避けることのできない生理現象です。それを病気と受け止めて悲観するか、あるいは体の衰えを少しでも遅くするよう普段から努力するか、によって健康観は大きく違ってきます。
誰でも複数の持病があって当たり前なのです。高齢化社会とは病気と仲良く暮らす時代のことと考えると健康観は変わるのではないでしょうか？？
持病のある方は、定期的に医者にみてもらい、健康管理を怠らないように！！

ほっとニュース　三和工業の遠藤紀夫氏

工事の無事故完成で
近接小学校に感謝

田村市立 門沢小にプレタブ

田村市の三和工業（武田公志社長）で現場代理人を務める遠藤紀夫氏は13日、田村市立門沢小学校にプレタブを寄贈した。

今年度は、県中建設事務所発注の「新舘地区急傾斜地対策工事」を担当。近接する同校が、プレタブを集めて車いすの購入に取り組んでいることを聞き、着工当初から社員及び協力会社に協力を要請し、プレタブを収集して、クリアファイルを贈呈した。

遠藤氏は、担当する現場に近接する小学校の工事への協力に感謝し、小学校が取り組む事業に様々な形で協力していた。

工事は無事故無災害でこのほど完了、重点事業として取り組んだ児童の事故防止も達成できたことから、13日に工事完了報告と併せて収集したプレタブを吉田宗男校長に贈呈した。

同日は武田社長も同伴し、現場内での事故防止への協力のお礼と寄贈したほか、児童に鉛筆を贈った。

なお、昨年は田村市立上大越小学校にプレタブと古新聞・雑誌を寄贈したほか、児童に鉛筆を贈った。

吉田校長に寄贈する遠藤氏（右）

クリアファイルを贈呈する武田社長（左）

【ほっとニュース】

この度遠藤紀夫さんの掛け声により、社員及び関係者の協力によりまして、地道にこつこつと集めてきたプレタブを、門沢小学校に贈呈した記事が新聞に掲載になりましたので紹介します。
遠藤紀夫さんは、数年前から休憩時間等で飲料していた空き缶のプレタブを地道に集めるようになりました。近隣の学校にプレタブを贈呈するようになったのは、昨年の流域下水道整備工事で、学校とのコミュニケーションを図ったことからであり、今後も引き続きプレタブの回収に協力して頂きたいと話しをしていましたので、協力をお願い致します。